

愛知県下の窯業遺跡出土資料の基礎的調査報告 I

—猿投窯東山地区及び尾北窯篠岡地区出土須恵器・瓷器の考古学的調査—

大西 遼（学芸員）

はじめに

愛知県猿投山西南麓古窯跡群（以下、猿投窯）は、古墳時代中期の開窯以降古代から中世にかけてのおよそ 1000 年近くの間、須恵器・瓷器（緑釉陶器、灰釉陶器、白瓷系陶器）等の生産を行った全国有数の大窯業地である。尾北古窯跡群（尾北窯）もまた、古代から中世にかけて須恵器・瓷器等を生産した大規模窯業地であり、基本的には猿投窯と同質の技術系譜にあるとされる。猿投窯・尾北窯の調査・研究は 1955 年に始まる愛知用水工事に伴う発掘調査以降現在に至るまで大きく進展し、近年刊行された『愛知県史 別編 窯業 古代 猿投系』で一つの到達点が示されるに至っている（註 1）。この間、発掘調査とともに分布調査も進展し、猿投窯・尾北窯の面的な広がりも明らかとなってきた（註 2）。

考古学的に窯業遺跡の研究を行う上で最も有力な資料は、層位的な情報を得ることのできる発掘調査により出土した資料であり、編年をはじめとした猿投窯・尾北窯の研究もこれらの資料を中心に進められてきた。一方で分布調査による表採資料も、その生産品目や時期とともに特に分布論的研究において重要な資料となってきたが、実測図の提示をはじめ資料の具体的な様相が示されることは少なかったのではないだろうか。こうした資料の様相を具体的に把握し再検討することは、今後の愛知県の窯業遺跡研究をより進展させることが出来るものと考えている。

以上のような問題意識のもと、愛知県陶磁美術館所蔵資料（1981 年の分布調査（註 3）の表採資料）をはじめ愛知県陶磁美術館保管資料、荒木集成館所蔵資料等に関して実測調査を行っている。本稿では、平成 26・27 年度に実施した猿投窯東山地区、尾北窯篠岡地区出土資料の一部について現状報告を行う。なお、各資料の時期比定については以下の文献を参照した。

愛知県史編さん委員会 2015『愛知県史』別編 窯業 1 古代 猿投系 愛知県

愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史』別編 窯業 2 中世・近世 瀬戸系

1. 猿投窯東山地区の須恵器・瓷器窯（図 1）

(1) H-39 号窯出土資料（図 3～図 5）

須恵器が出土している。1～31 は杯蓋である。ただし、27 は残存部の様子から鈕を持つ有蓋高杯蓋になるものと考えられる。資料中で最も多く、器高に対して口径が比較的大きく口縁部が長めの一群を杯蓋Ⅰ類、Ⅰ類と比較し器高に対する口径が小さく箱形に近い器形に復元される一群を杯蓋Ⅱ類、Ⅰ類と比較して器高・口径ともに小形で口縁部が短く全体に矮小な作りのものを杯蓋Ⅲ類、Ⅲ類よりも更に矮小化が進み稜が沈線化したものを杯蓋Ⅳ類とした。36～49 は杯身である。資料中で最も多く、器高に対して口径が比較的大きく立ちあがりながめの一群を杯身Ⅰ類、Ⅰ類と比較し器高に対する口径が小さく底部が深手に復元されるものを杯身Ⅱ類、Ⅰ類と比較して器高・口径ともに小形に復元され全体に矮小な作りのものを杯身Ⅲ類とした。杯蓋との対応は杯蓋Ⅰ類と杯身Ⅰ類、杯蓋Ⅱ類と杯身Ⅱ類、杯蓋Ⅲ類・Ⅳ類と杯身Ⅲ類と想定でき、それぞれ H-10 号窯式、H-61 号窯式、H-15 号窯式以降に比定される。32～35 は杯蓋または杯身で、丸天井ないし丸底、平天井ないし平底というように丸・平双方が存在する。50～57 は高杯である。50～52 は無蓋高杯の杯部、53～57 は脚部で、確実に長脚二段透孔になるものが含まれる（55）。58・59 は壺である。蓋杯以外の器種についても、蓋杯で想定された窯式内でおさまる様相を持つと言える。以上 1～59 は愛知県陶磁美術館保管資料である。

60～63 は荒木集成館所蔵である。60 は杯蓋と杯身の釉着資料、61 は杯蓋、63 は杯身、62 は杯身の形で復元したが杯蓋天井部ないし杯身底部で、平天井ないし平底となる。前述の愛知県陶磁美術館保管資料と様相差は認められない。以上、H-39 号窯出土資料は H-61 号窯式を主体とし、一部 H-10 号窯式・H-15 号窯式以降に比定される資料が含まれる。

(2) H-47 号窯 (図6)

須恵器が出土している。1は無台ないし有台杯身、2・3は無台杯身、4は有台器種の高台部、5は陶錘である。I-17号窯式～I-41号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

(3) H-G-38号窯 (図6)

灰釉陶器が出土している。6・7は灰釉椀、8は灰釉輪花小椀である。O-53号窯式～H-72号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

(4) H-G-48号窯 (図6)

白瓷系陶器が出土している。9・10は椀、11は小椀である。尾張型3型式に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

(5) H-G-52号窯 (図6)

白瓷系陶器が出土している。12は椀、13は小椀、14は経筒外容器の蓋の可能性が考えられる。尾張型3型式に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

(6) H-G-24号窯 (図6)

白瓷系陶器が出土している。15は椀、16は小椀である。尾張型3型式～尾張型4型式に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

(7) H-G-100号窯 (図6)

白瓷系陶器、瓦が出土している。17は椀、18は凸帯を持つ壺・瓶類、19は三巴文軒丸瓦で珠文を持たない。尾張型5型式～尾張型6型式に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

2. 尾北窯篠岡地区の須恵器・瓷器窯出土資料 (図2)

(1) S-78号窯 (図7)

須恵器が出土している。1は杯蓋、2は返り付の杯蓋、3は無蓋高杯、4は有台杯身、5は平行タタキ痕を持つ壺・甕、6は長方形の格子タタキ痕を持つ壺・甕である。I-17号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館所蔵。

(2) S-46号窯 (図7)

須恵器、灰釉陶器が出土している。7・8は杯蓋、9・11・14は有台杯身、10は無台杯身、12・13は杯身、15は皿、16は無蓋高杯、17は壺、18は短頸壺と考えられる高台、19は灰釉段皿である。須恵器はC-2号窯式、灰釉陶器はK-14号窯式に比定できるが、灰釉陶器は周辺窯からの混入と考えられる。愛知県陶磁美術館所蔵。

(3) S-68号窯 (図7)

須恵器が出土している。20・21は杯蓋、22は平行タタキ痕を持つ壺・甕、23は平行条線に直行する直線が認められるタタキ痕を持つ壺・甕である。I-17号窯式～I-41号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館所蔵。

(4) S-18号窯 (図8)

須恵器が出土している。24・25は杯蓋、26は有台杯身、27は無台杯身、28は皿である。I-17号窯式～C-2号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

(5) S-81号窯 (図8)

須恵器が出土している。29～32は杯蓋、33～35は有台杯身である。C-2号窯式～I-25号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館所蔵。

(6) S-41号窯 (図8)

須恵器と灰釉陶器が出土している。36は杯蓋、37～39は有台杯身、40は灰釉皿である。須恵器はI-41号窯式～C-2号窯式、灰釉陶器はO-53号窯式に比定できるが、後者は周辺の窯からの混入と考えられる。愛知県陶磁美術館保管。

(7) S・V-4号窯 (図8)

現在の窯名でどれにあたるかについては今後の課題である。須恵器が出土している。41は杯蓋、42・43は有台杯身である。I-41号窯式～C-2号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

(8) S・II-9号窯 (図9)

現在の窯名でどれにあたるかについては今後の課題である。須恵器が出土している。44は杯蓋、45は有台杯身である。C-2号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

(9) S-23号窯 (図9)

須恵器が出土している。46は杯蓋、47は有台杯身である。C-2号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

(10) S-9号窯 (図9)

須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器の可能性のある個体、瓦が出土している。須恵器には48の杯蓋、49の横瓶がある。灰釉陶器には51の段皿、53・59～61の椀、52・54～57の深椀、62の小椀、58の耳皿と考えられる底部がある。なお50の皿は比較的軟質なものであり、緑釉陶器の素地である可能性と、焼成不良により十分に釉がガラス化せず剥落した灰釉陶器である可能性の二つが考えられる。緑釉陶器の可能性のある個体には64の短頸壺があり、比較的軟質の素地に淡黄色の釉が認められる。63は丸瓦である。須恵器はC-2号窯式、灰釉陶器はH-72号窯式～百代寺窯式に比定でき、前者は量的に周辺の窯からの混入と考えられる。愛知県陶磁美術館保管。

(11) S-43号窯 (図9)

須恵器が出土している。65は杯蓋、66は有台杯身、67は有台盤である。O-10号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

(12) S-10号窯 (図9)

68の須恵器の壺・甕体部が出土している。愛知県陶磁美術館保管。

(13) S-34号窯 (図9)

69の須恵器の無台椀が出土している。O-10号窯式～K-14号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館所蔵。

(14) S-20号窯 (図10)

須恵器が出土している。70・71は杯蓋、72・73は有台杯身、74は有台椀、75は無台椀ないしは壺と考えられる。O-10号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

(15) S-42号窯 (図10)

須恵器と白瓷系陶器が出土している。76は有台杯身、77は椀である。須恵器はO-10号窯式、白瓷系陶器は尾張型3型式に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

(16) 篠岡高根窯 (図10)

須恵器が出土している。78・79は杯蓋、80・81は無台杯身、82・83は有台杯身、84・85は有台盤である。O-

10号窯式～K-14号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

(17) S-89号窯 (図11)

須恵器が出土している。86は杯蓋、87は有台杯身、88は壺である。O-10号窯式～K-14号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館所蔵。

(18) S-84号窯 (図11)

須恵器と灰釉陶器が出土している。89は杯蓋、90は無台杯身、91は灰釉輪花椀、92は灰釉輪花皿である。須恵器はO-10号窯式、灰釉陶器はK-90号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館所蔵。

(19) S-83・84号窯 (図11)

須恵器が出土している。93・94は杯蓋、95は有台杯身、96は瓶類底部、97は壺・甕である。O-10号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館所蔵。

(20) S-32・33号窯 (図11)

須恵器と灰釉陶器が出土している。98は杯蓋、99は有台杯身、100・101は無台椀、103は不明器種、102は灰釉段皿である。103は甕の口縁部、器台のツバ様の部分等が可能性として考えられるが決定しかねる。須恵器はO-10号窯式～K-14号窯式、灰釉陶器はO-53号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館保管。

(21) S-47号窯 (図11)

須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器素地が出土している。104は杯蓋、105・106は無台椀、107は灰釉椀、108は灰釉皿、109は灰釉椀または皿、110は緑釉皿の素地である。須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器素地ともK-14号窯式に比定できる。愛知県陶磁美術館所蔵。

おわりに

以上、猿投窯東山地区と尾北窯篠岡地区に属するいくつかの窯について、出土資料の概要と時期比定について述べた。今後これらの資料の詳細な分析・検討を行い、猿投窯・尾北窯全体の中での歴史的な位置付けを行っていく必要がある。また、今回は須恵器窯を調査対象の中心として据えたが、今後は同地区の他の瓷器窯及び、猿投窯・尾北窯のその他の地区の須恵器・瓷器窯出土資料の調査も行っていきたい。

謝辞

本稿の執筆にあたり、以下の方々、機関から御協力・御助言をいただきました。末筆ですが深謝いたします。
荒木正直、井上喜久男、尾野義裕、平尾政幸、浅田博造、公益財団法人荒木集成館

[註]

- (1) 愛知県史編さん委員会 2015『愛知県史』別編 窯業1 古代 猿投系 愛知県
- (2) 分布調査の成果が示された主な文献として以下がある。なお、分布・発掘調査の進展、地区区分の見直し等から窯名の変更等が生じた窯もあるが、前掲註(1)で前記の整理も踏まえた最新状況が示された。
檜崎彰一ほか 1957『愛知県猿投山西南麓古窯址群』愛知県教育委員会
檜崎彰一ほか 1958『愛知県猿投山西南麓古窯址群』愛知県教育委員会
檜崎彰一ほか 1959『愛知県猿投山西南麓古窯址群』愛知県教育委員会
檜崎彰一・齊藤孝正 1980『愛知県猿投山西南麓古窯跡群分布調査報告』(I) 愛知県教育委員会
檜崎彰一・齊藤孝正 1981『愛知県猿投山西南麓古窯跡群分布調査報告』(II) 愛知県教育委員会
檜崎彰一・齊藤孝正 1983『愛知県古窯跡群分布調査報告』(III) 愛知県教育委員会
- (3) 前掲註(2) 檜崎彰一・齊藤孝正 1983

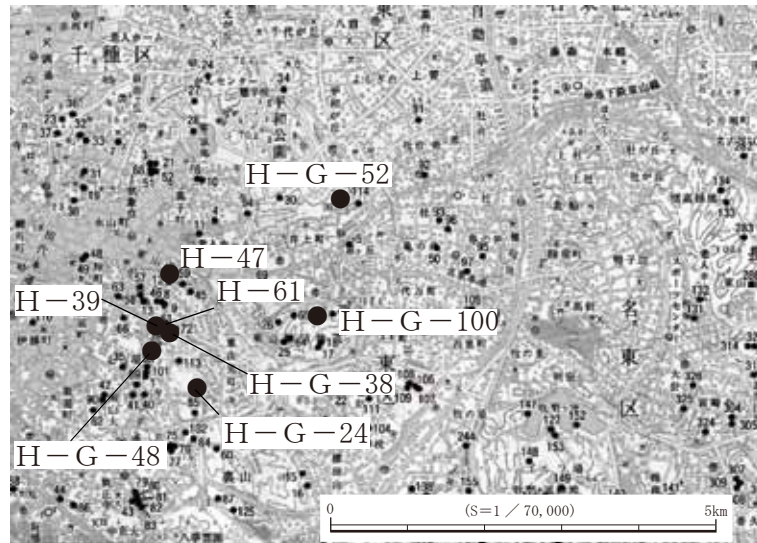


図1 本稿で扱う猿投窯東山地区の窯
 (参考としてH-61号窯の位置を示す、
 愛知県史編さん委員会 2015 をもとに作成)

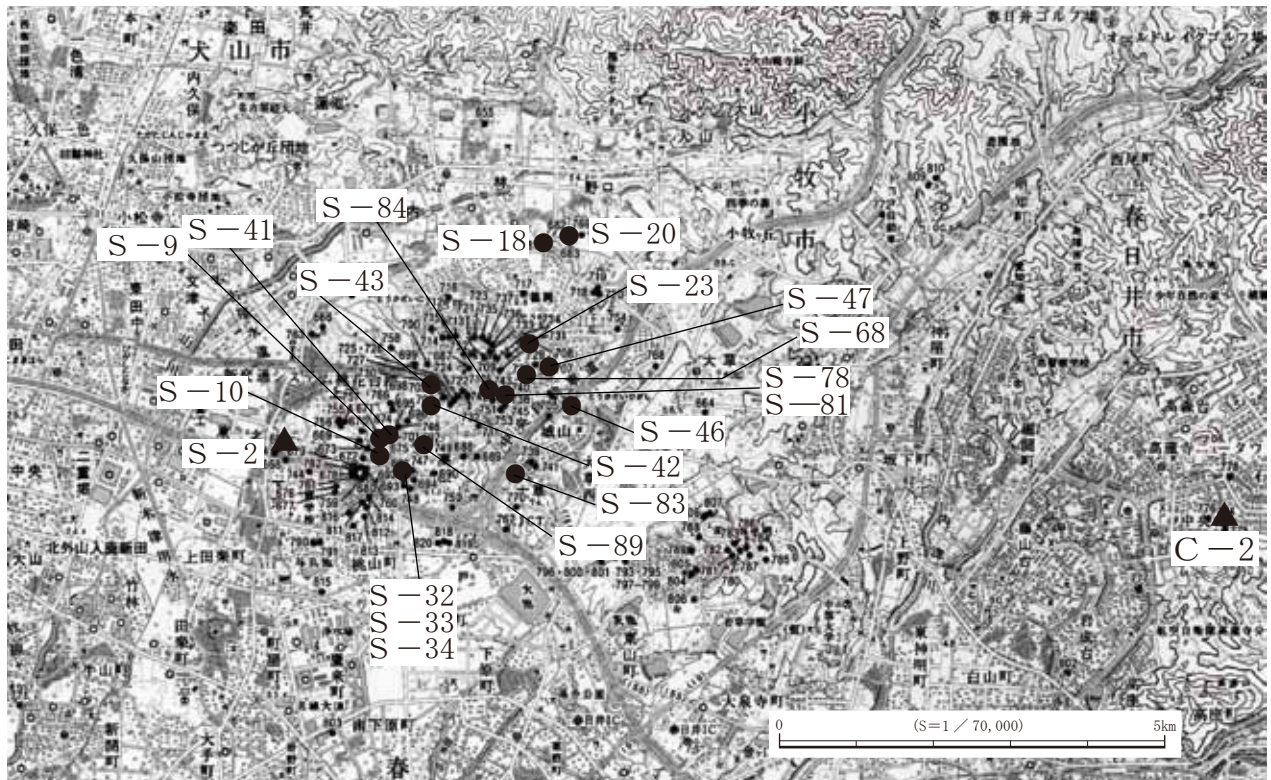


図2 本稿で扱う尾北窯篠岡地区の窯
 (参考としてS-2・C-2号窯の位置を示す、愛知県史編さん委員会 2015 をもとに作成)

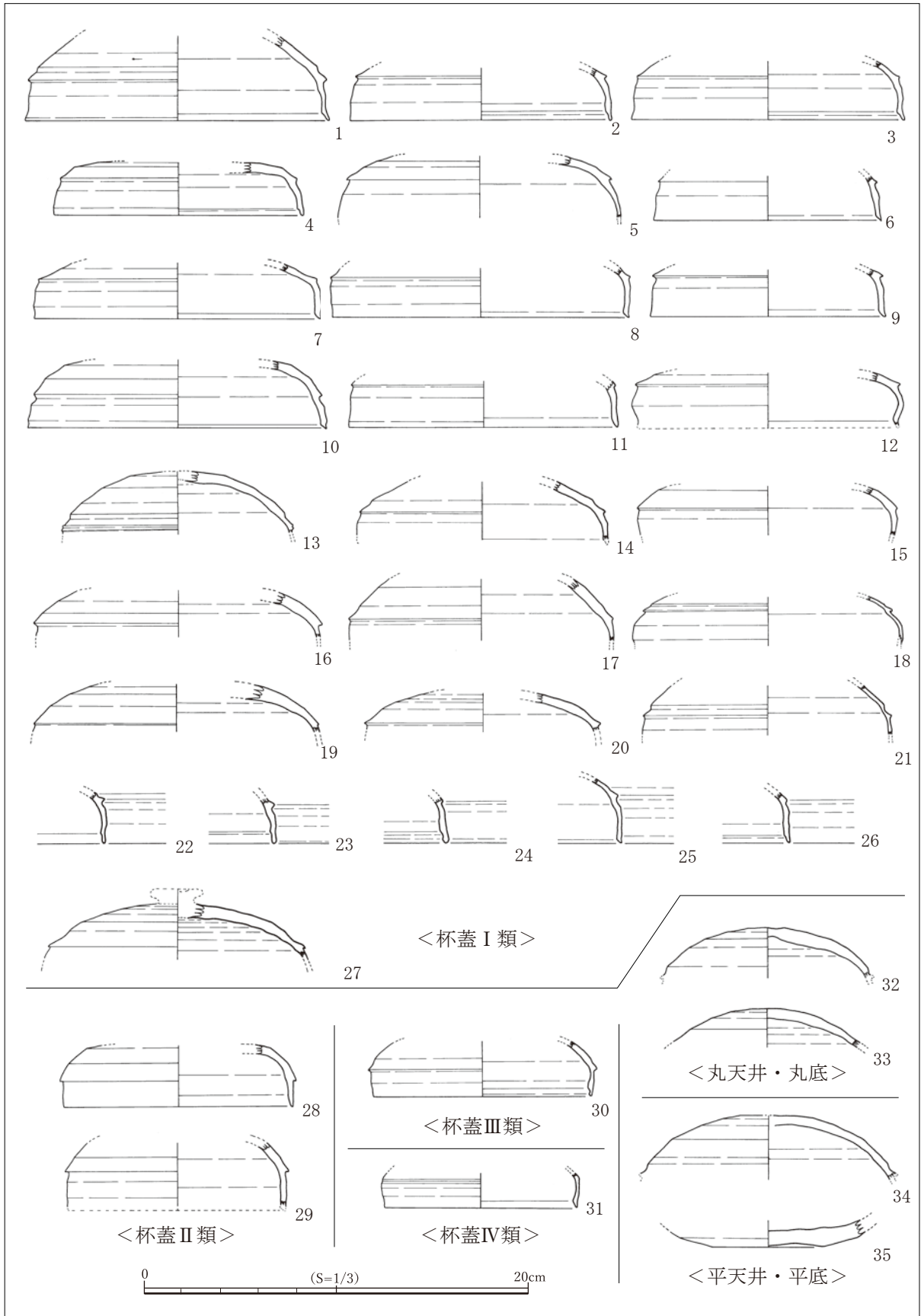


図3 猿投窯H-39号窯出土遺物実測図 (愛知県陶磁美術館保管)①

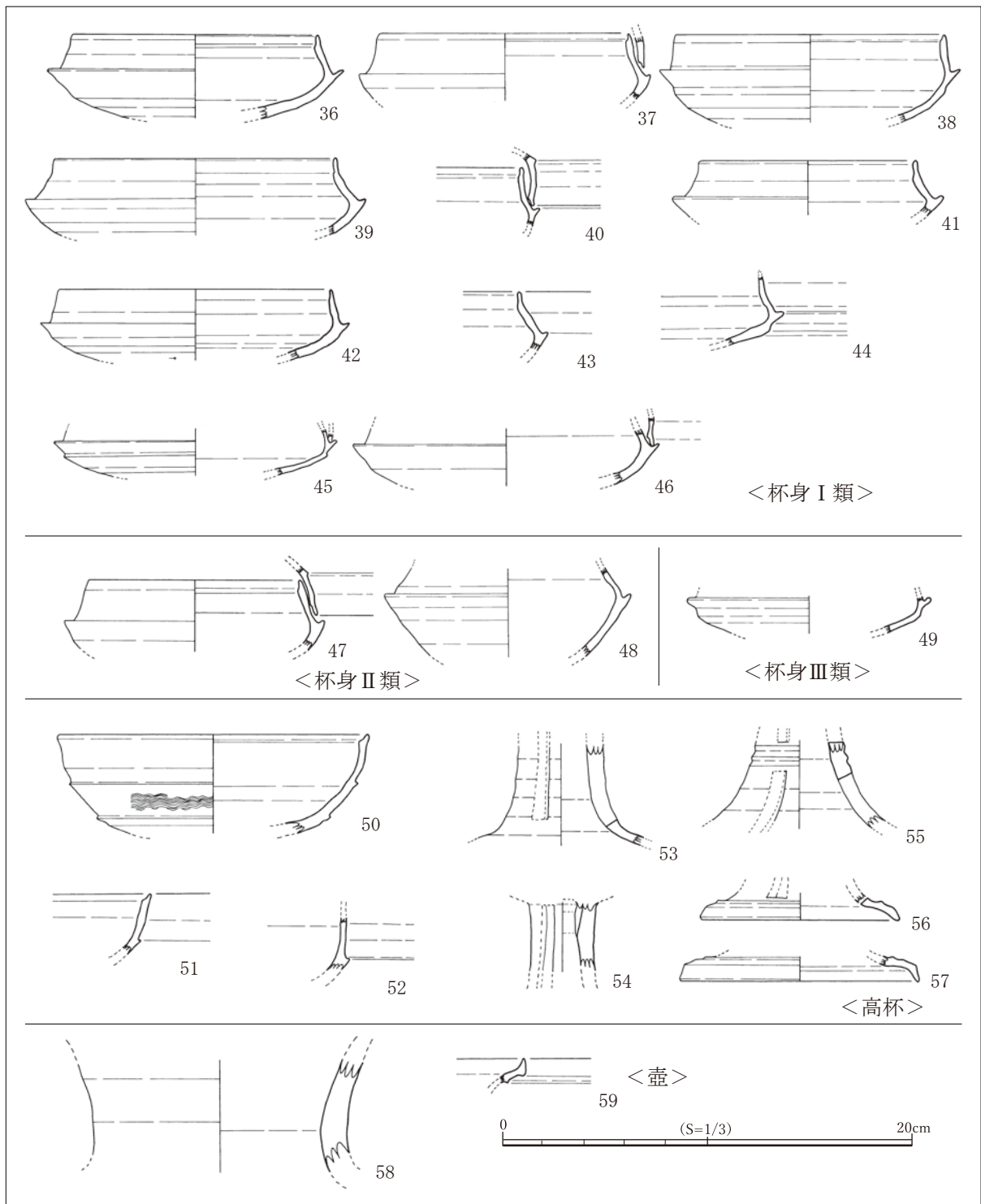


図4 猿投窯H-39号窯出土遺物実測図（愛知県陶磁美術館保管）②

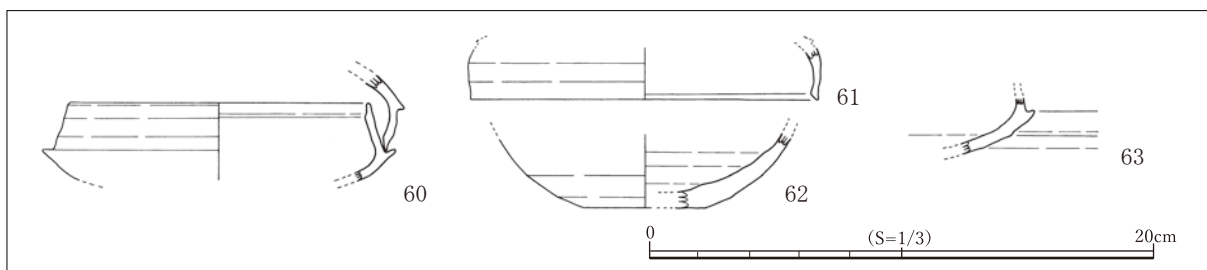
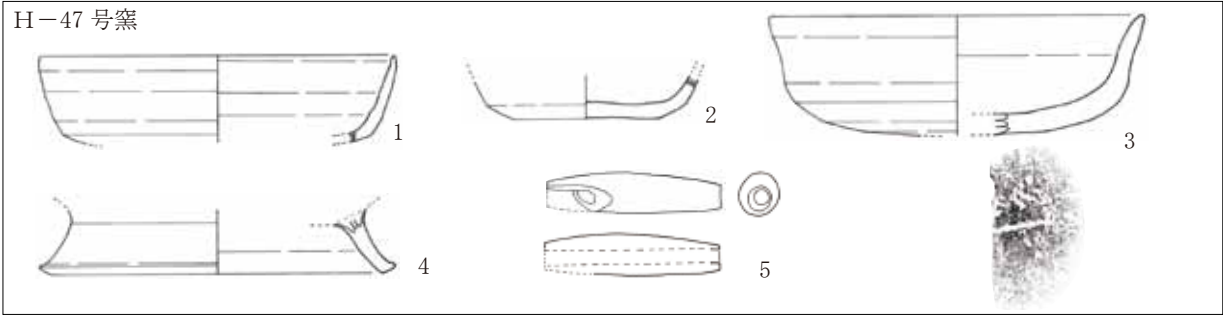
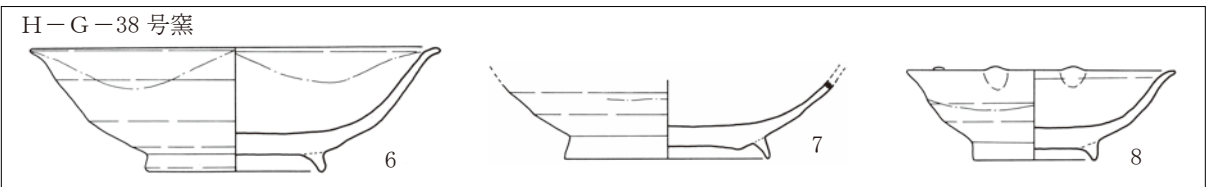


図5 猿投窯H-39号窯出土遺物実測図（荒木集成館蔵）

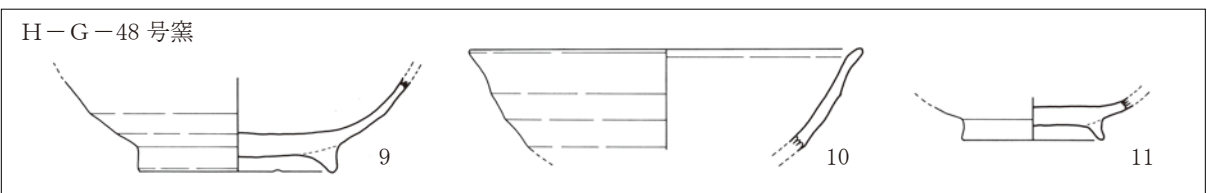
H-47 号窯



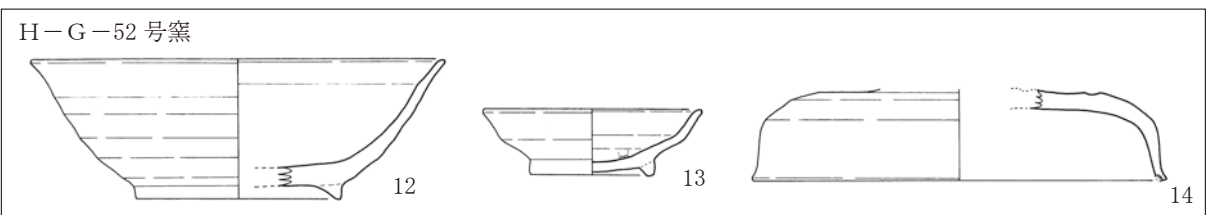
H-G-38 号窯



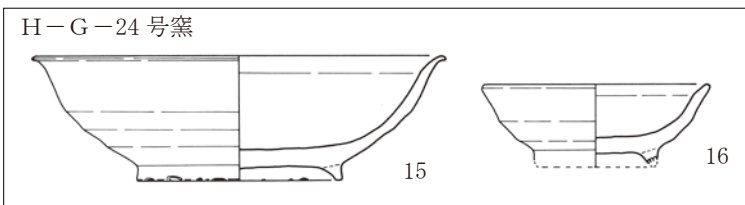
H-G-48 号窯



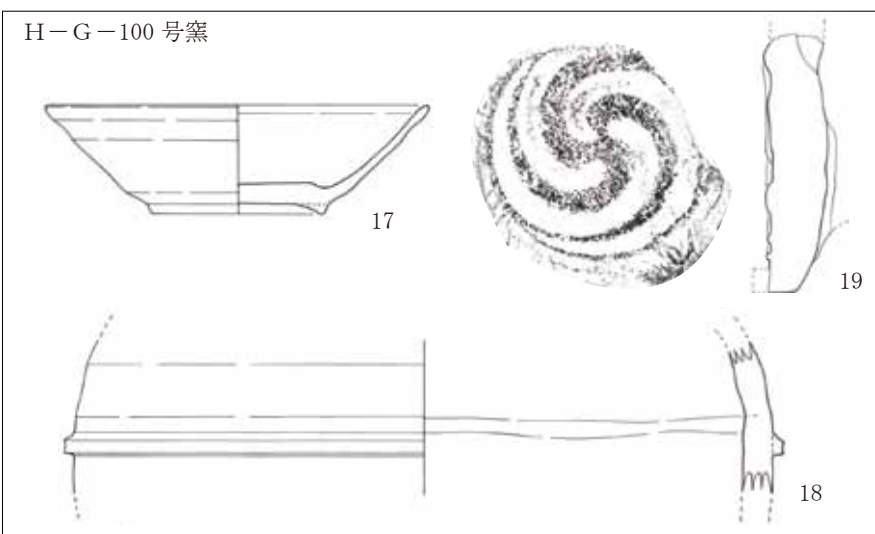
H-G-52 号窯



H-G-24 号窯



H-G-100 号窯



0 (S=1/3) 20cm

図6 猿投窯東山地区所在の須恵器・瓷器窯出土遺物実測図（愛知県陶磁美術館保管）

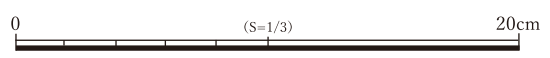
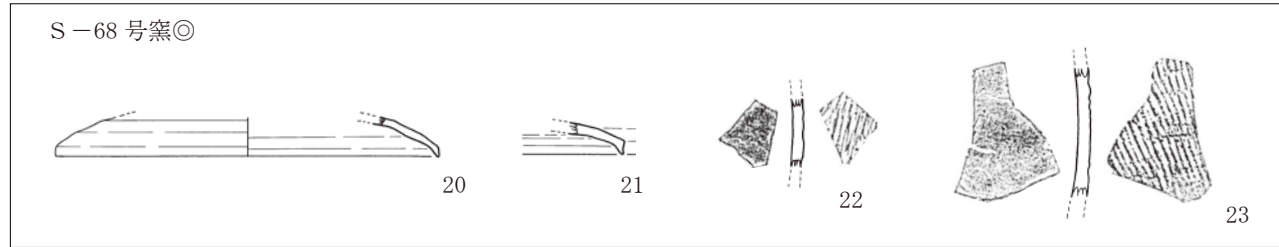
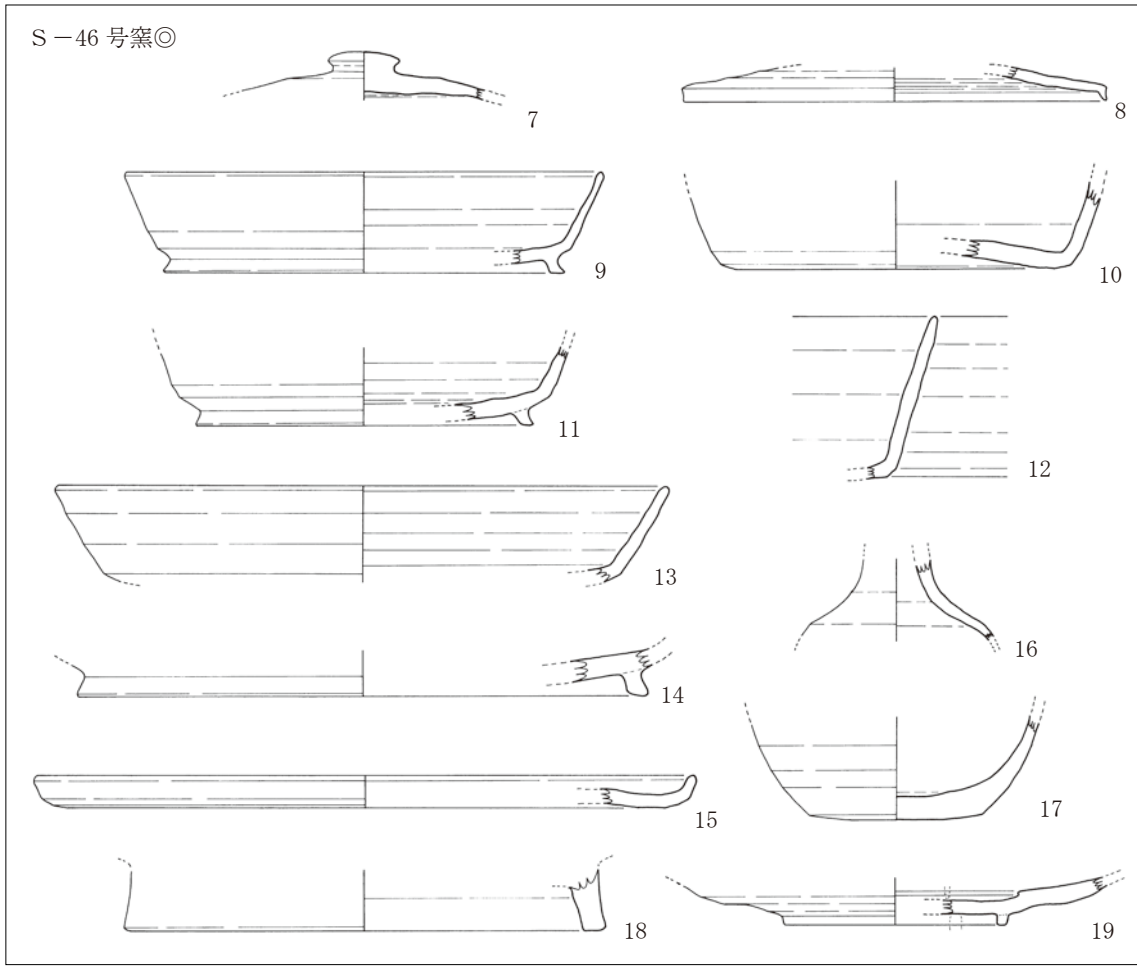
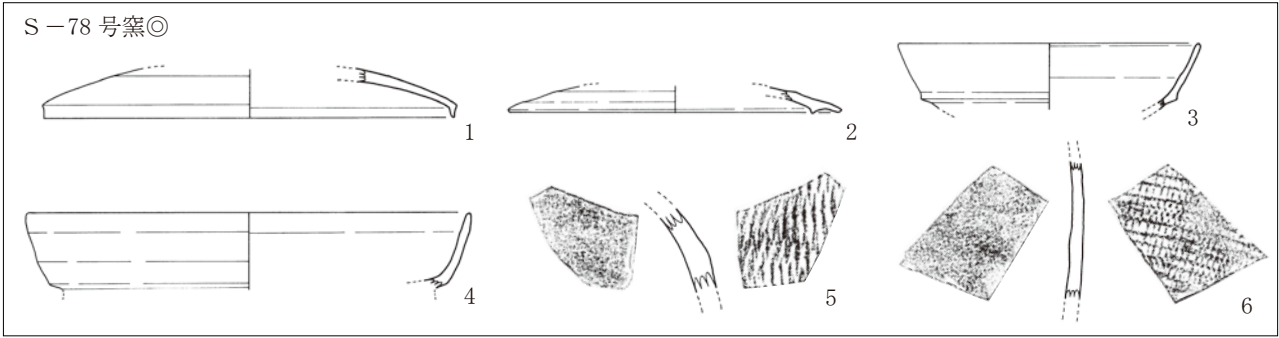
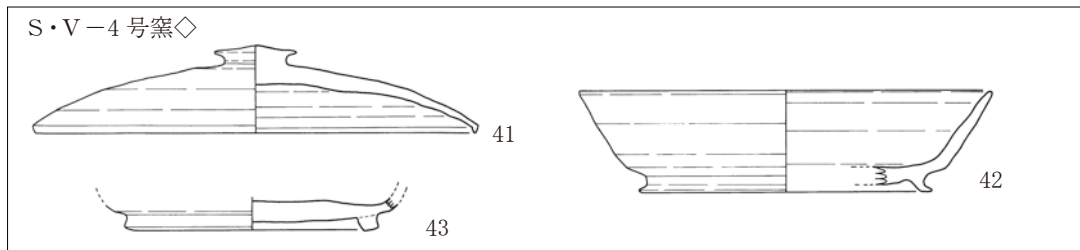
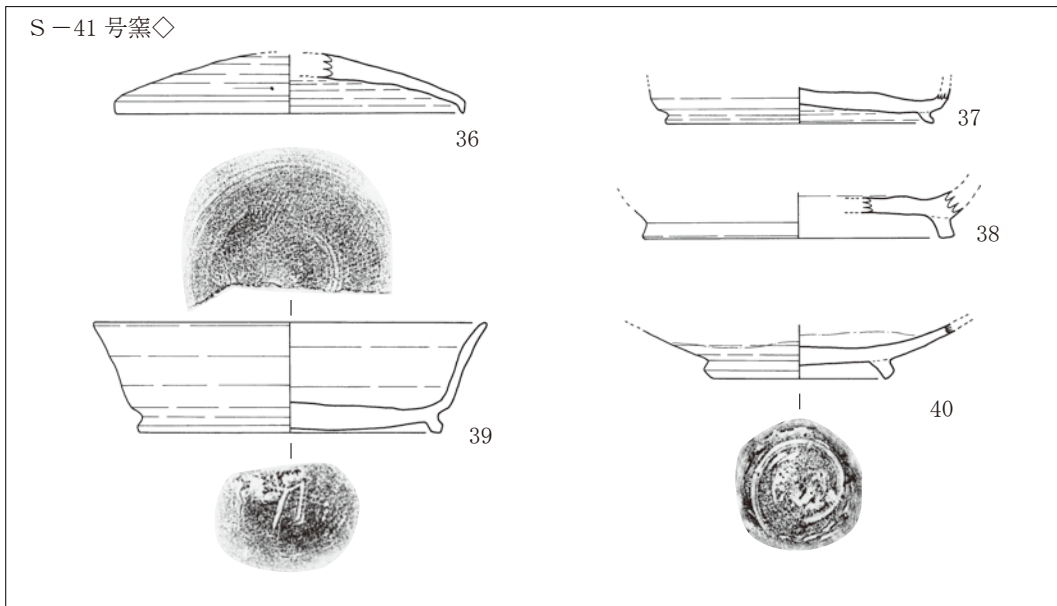
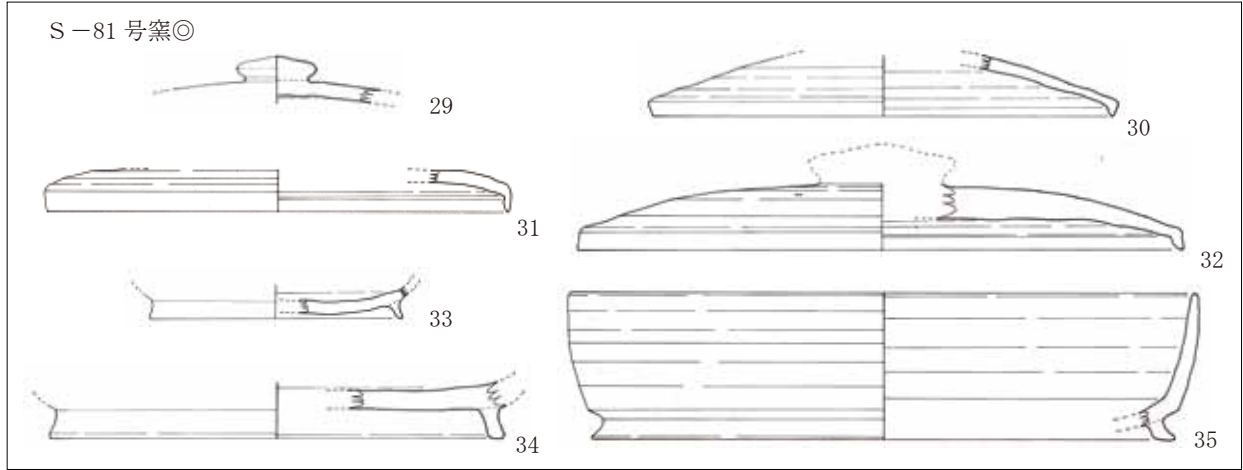
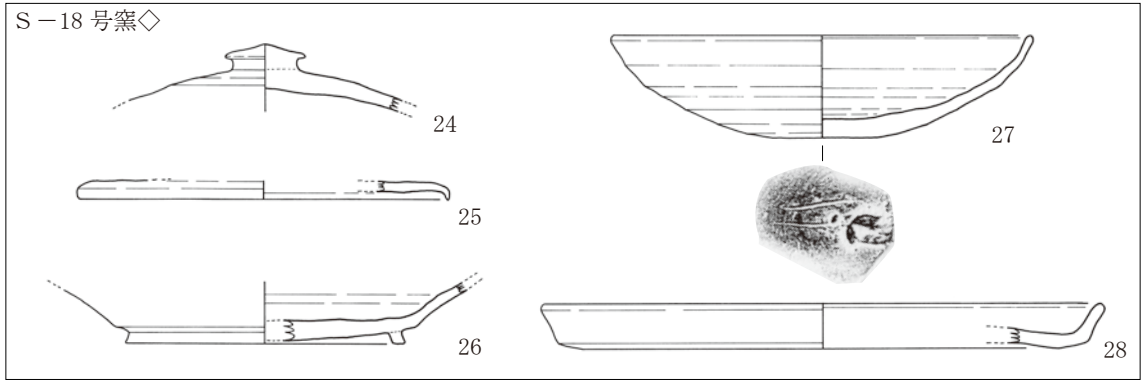


図7 尾北窯篠岡地区所在の須恵器・瓷器窯出土遺物実測図①
 (◎: 愛知県陶磁美術館蔵、◇: 愛知県陶磁美術館保管)



0 (S=1/3) 20cm

図8 尾北窯篠岡地区所在の須恵器・瓷器窯出土遺物実測図②
 (◎: 愛知県陶磁美術館蔵、◇: 愛知県陶磁美術館保管)

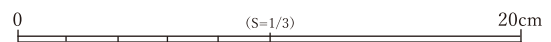
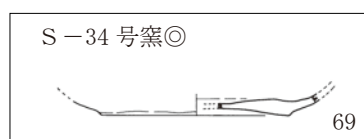
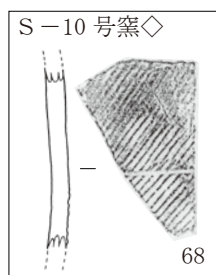
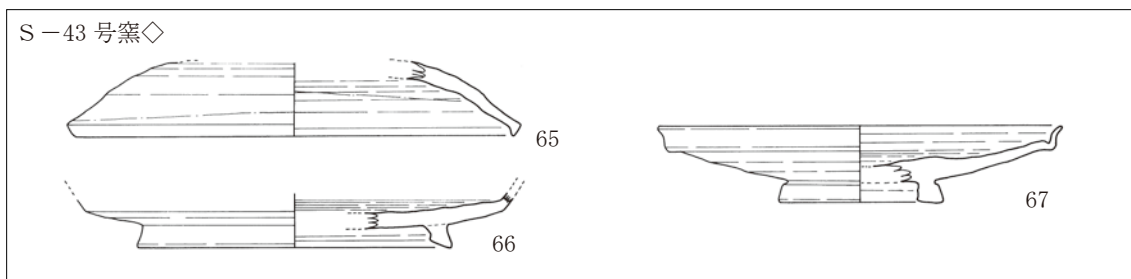
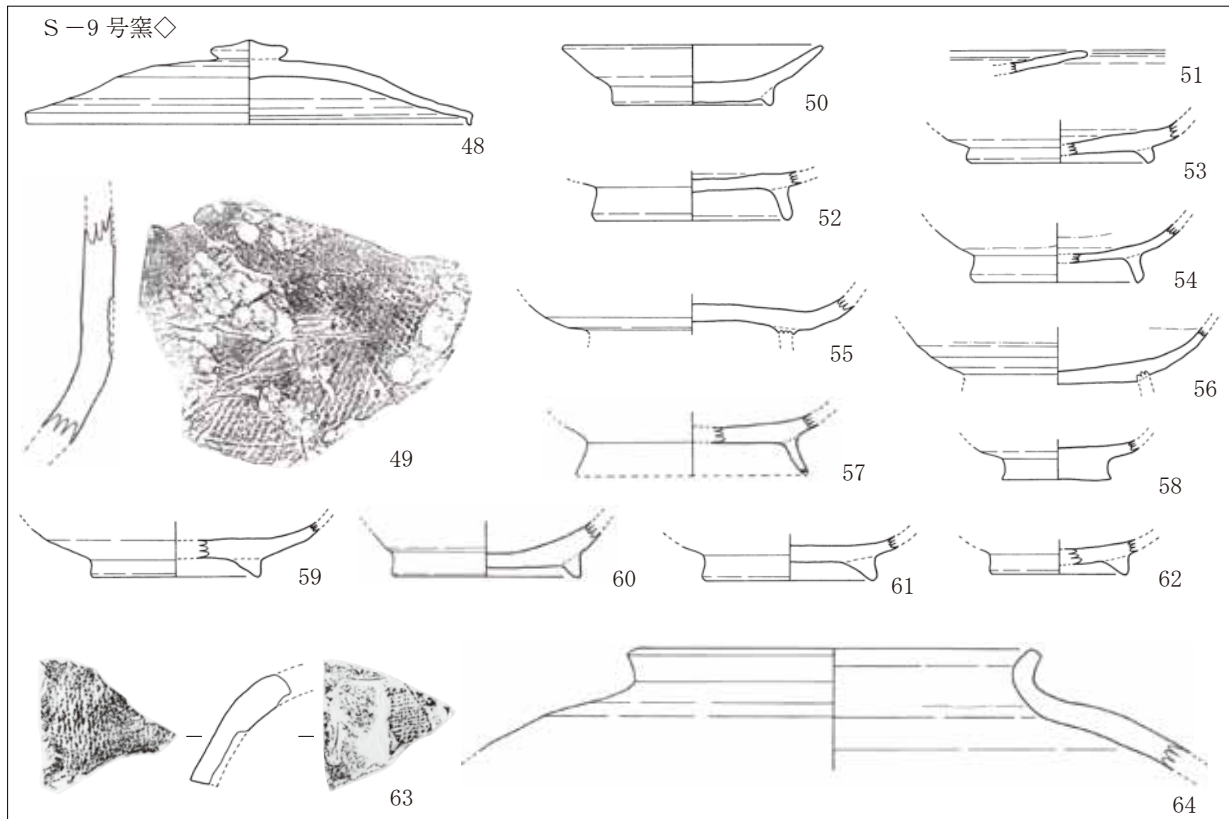
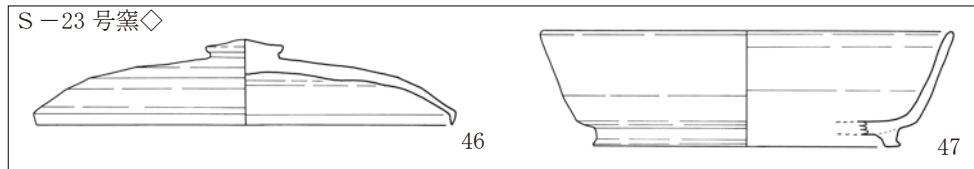
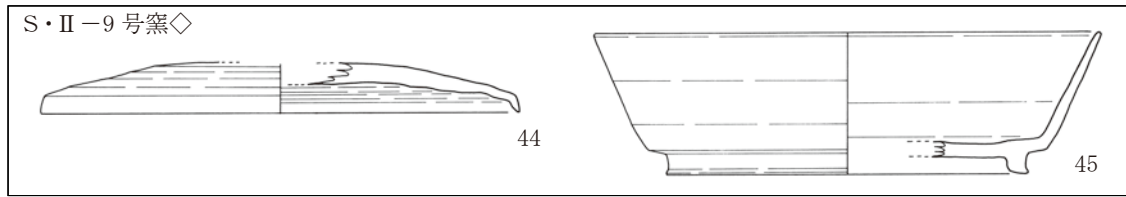
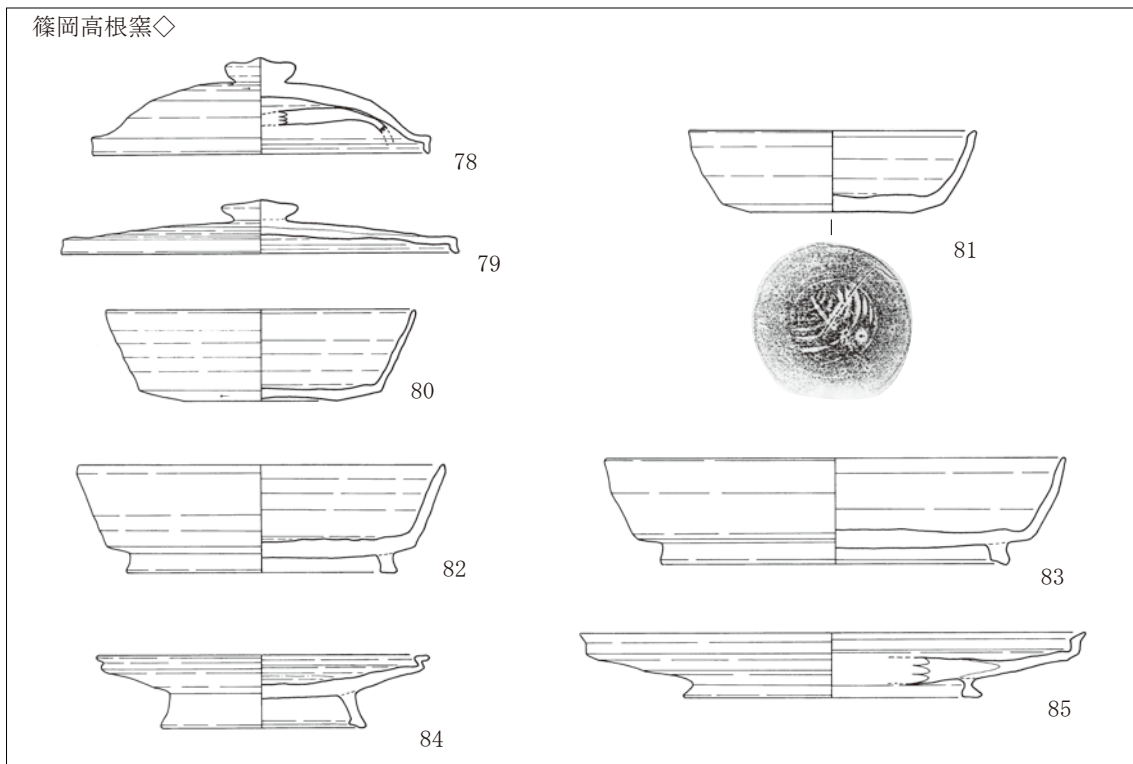
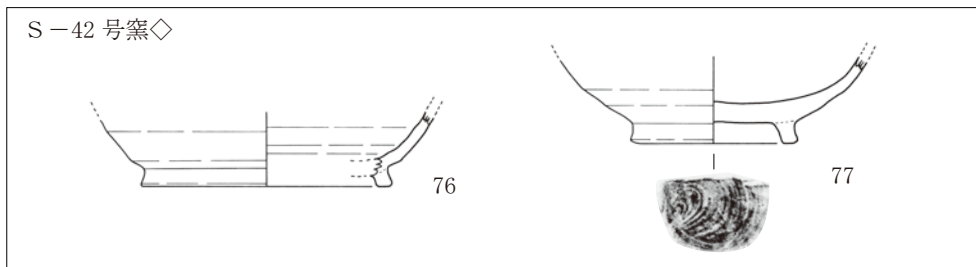
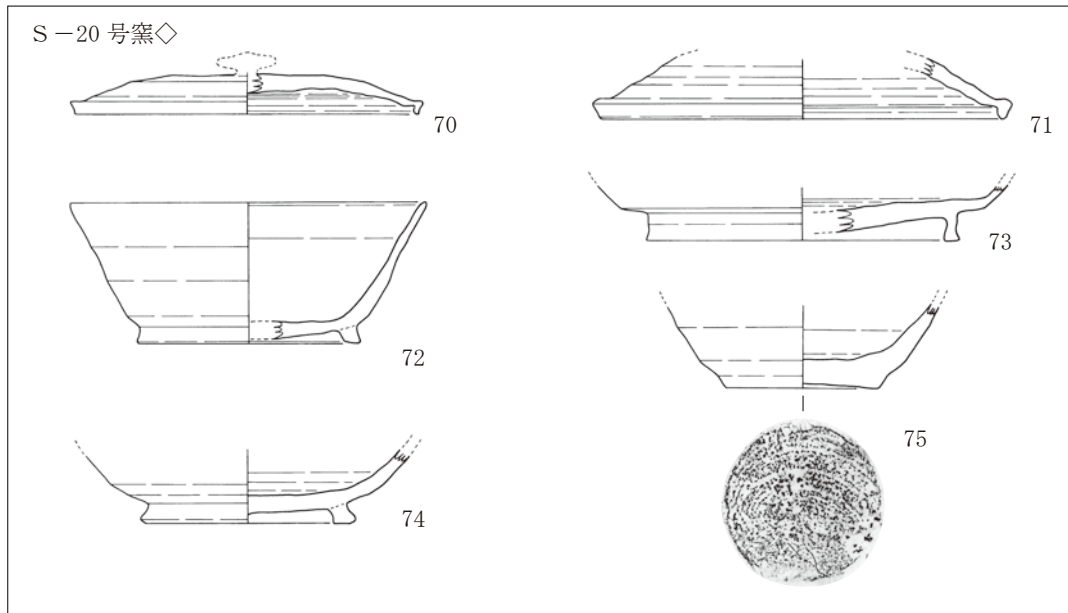


図9 尾北窯篠岡地区所在の須恵器・瓷器窯出土遺物実測図③
 (◎: 愛知県陶磁美術館蔵、◇: 愛知県陶磁美術館保管)



0 (S=1/3) 20cm

図10 尾北窯篠岡地区所在の須恵器・瓷器窯出土遺物実測図④
 (◎: 愛知県陶磁美術館蔵、◇: 愛知県陶磁美術館保管)

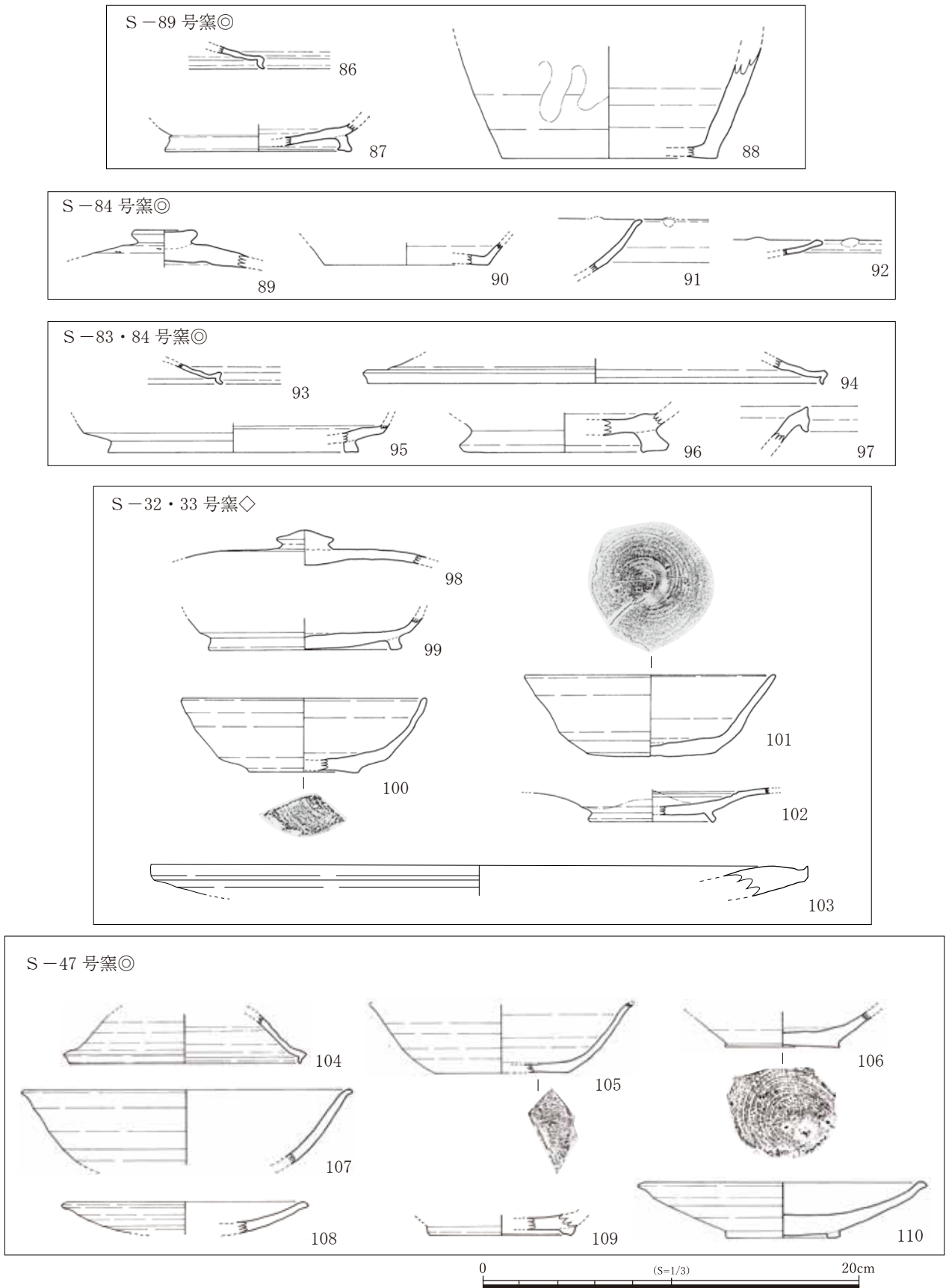


図 11 尾北窯篠岡地区所在の須恵器・瓷器窯出土遺物実測図⑤
 (©: 愛知県陶磁美術館蔵、◇: 愛知県陶磁美術館保管)